



NEWS RELEASE

株式会社すららネット
2026年6月12日

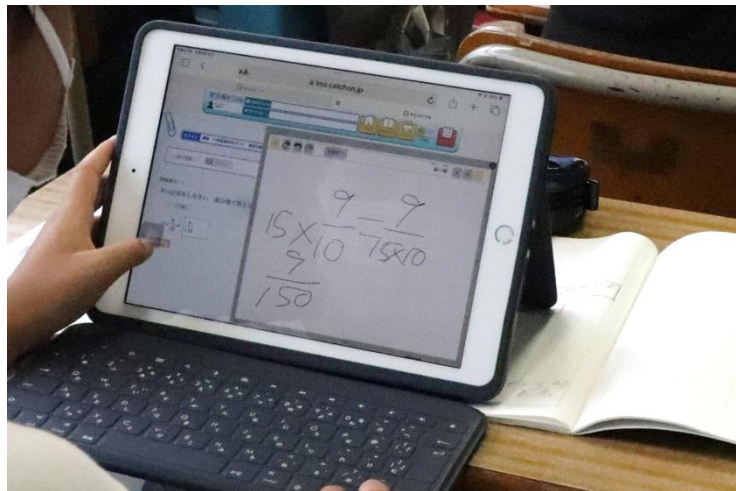
＜すららネットと朝霞市教育委員会の実証研究成果報告＞

AIドリルで「つまずき」が「自信」に変わる

生徒の76.7%が「やればできる」と実感、個別最適学習の有効性を示唆

AIを活用したアダプティブな対話式 ICT 教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）は、2025年5月から2026年3月まで埼玉県朝霞市教育委員会と共同で「つまずきを自信に～成長を実感できる授業（学習）」の実現をテーマとした実証研究を実施しました。

本研究の分析の結果、「すららドリル」を活用することで、児童生徒が自らのつまずきに気づき、克服しながら「やればできる」という自信へとつなげていく学習プロセスが機能していることが示唆されました。



生徒の76.7%が「やればできる」と実感、個別最適学習が意識変化を促進

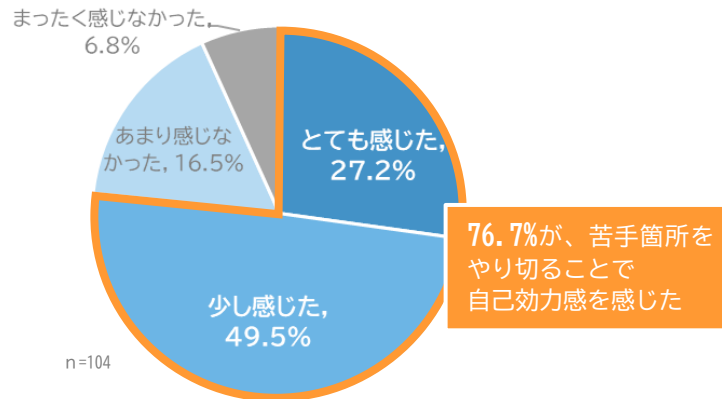
朝霞第四中学校では、1年生約120名を対象に、英語の授業で「すららドリル」を活用した実証研究を行いました。授業内では2～3コマごとに小テストを実施し、その場で採点することで、学習の理解度を（即座に）可視化しました。さらに、その結果に基づき、一人ひとりに最適化された復習課題を自動配信することで、生徒は自分の苦手に応じた学び直しに取り組み、苦手な早期克服を図りました。加えて、月単位では特定の文法に絞った課題により知識の体系化を促し、長期休暇前には学力診断テストを起点とした総復習を実施することで、つまずきを持ち越さず、学習習慣の定着と理解の積み上げを支援しました。

実証後のアンケート結果では、学習に対する意識に大きな変化が見られました。特に、「復習課題（＝テストでは間違えてしまった問題）をクリアしたとき、「やればできる！」といった手応えを感じましたか」という問いに対しては、生徒の76.7%が肯定的に回答し、「やればできる」という実感につながっていることが確認されました。また、「自分にあった問題が出ていると感じましたか」は70.9%、「苦手やつまずきを自分で気づくことにつながりましたか」は74.8%と、

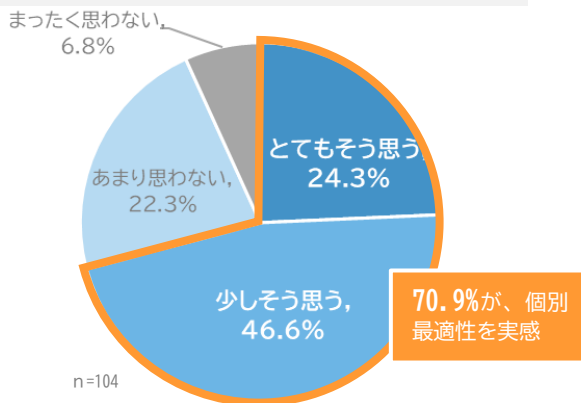
いずれも高い評価となりました。

これらの結果から、AIドリルによる個別最適な学習は、単なる知識の習得にとどまらず、「自分の理解状況を把握する力」や「やり切ることで得られる自信」といった非認知能力の向上にも寄与している可能性が示されました。

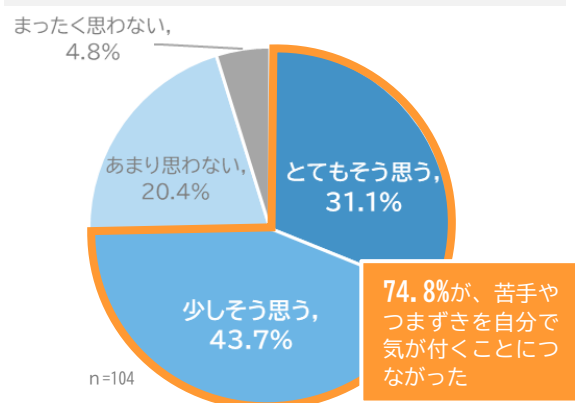
Q. 復習課題(=テストでは間違えてしまった問題)をクリアしたとき、「やればできる!」といった手応えを感じましたか?



Q. すららドリルでの学習は、自分にあった問題が出ていたと感じましたか?



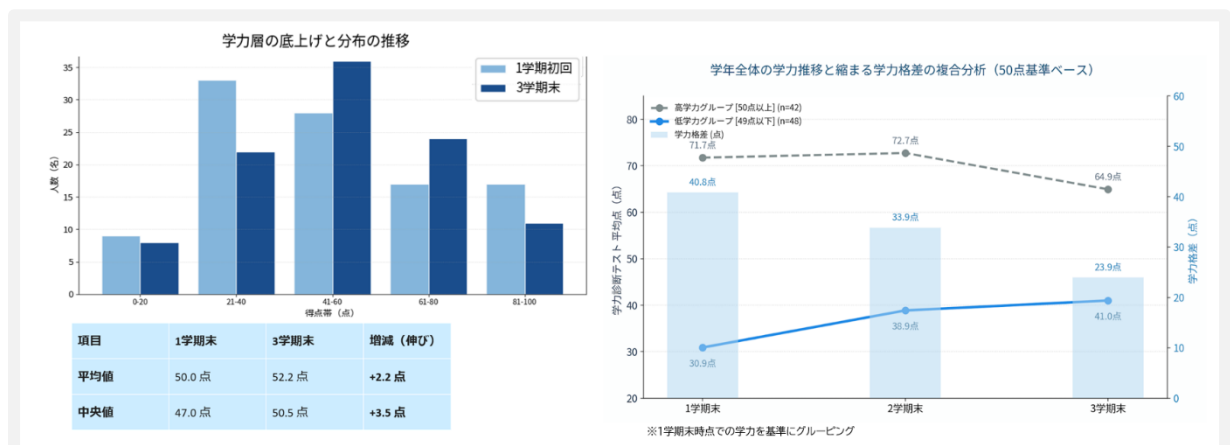
Q. すららドリルでの学習は、自分の苦手やつまづきを「自分で」気づくことにつながりましたか?



学力面でも成果、低学力層の底上げと学力差の縮小

学力面においても変化が確認されました。1学期末と3学期末を比較すると、平均点および中央値はいずれも上昇し、学力分布全体が上方へシフトしました。特に低学力層の得点向上が顕著であり、学習を重ねる中で学力差が縮まる傾向が見られました。

また、課題への取り組み状況と学力の間には明確な相関が確認されており、AIにより個別最適化された復習課題への取り組みは、学力向上に寄与している可能性が示唆されています。



「個別最適な学び」から「自信」へつながる学習サイクル



本実証の特徴は、学習プロセスの設計にあります。授業内では小テストによりつまづきを即時に可視化し、その結果に応じて一人一人の理解度に合わせた復習課題を自動配信しました。さらに、レクチャー機能による学び直しを組み合わせることで、「わからない」を「わかる」に変え、段階的に理解を積み上げる仕組みを構築しました。

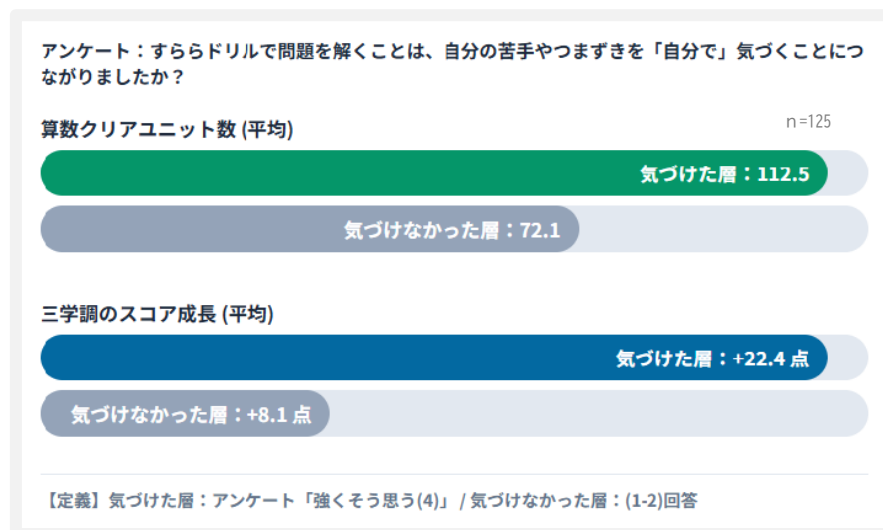
すららネットでは、この一連の流れを「個別最適な学び」から「自己理解」「苦手克服」を経て「自信・自己効力感」へとつながる学習サイクルと捉えています。本実証においても、生徒がこのサイクルを回しながら、「できるようになる」という実感を得ていく様子が確認されました。

従来は、定期考査のタイミングに限られていた振り返りが、日常的な学習の中で繰り返されることで、自らの課題に気づき、主体的に克服していく学びへと変化している点が特徴です。

小学校でも同様の傾向、家庭学習中心でも効果を確認

朝霞第三小学校では、小学6年生約130名を対象に、家庭学習を中心とした運用が進められました。週次で配信される課題に取り組み、その内容をもとに学校で小テストを行う学習サイクルを構築しています。その結果、学力診断テストと学習ログ、非認知能力の変化の間に一定の相関が確認されました。

こうした点から、活用形態が異なる場合であっても、「すららドリル」による「自己理解」や「自信形成」といった効果は、一定程度共通して現れる可能性が示唆されました。



「つまづき」を「自信」に変える学びのモデルへ

今回の実証研究は、AIドリルを活用することで、「つまづき」を出発点にしながら成長を実感できる学びが実現し得ることを示しました。児童生徒が自らの理解状況に気づき、苦手を乗り越え、「できるようになる」という経験を積み重ねていくことが、学習意欲と自信の向上につながります。

すららネットは今後も、本実証の成果をもとに、教育現場における具体的な活用モデルの構築と普及を進めるとともに、一人ひとりの学びを支える取り組みを推進してまいります。

【実証研究概要】

■期間 : 2025年5月～2026年3月

■使用教材 : 「すららドリル」

■対象校・教科

- 朝霞第三小学校 6年生、約130名（算数）
- 朝霞第四中学校 1年生、約120名（英語）

■主な目的

- 児童生徒が「単元学習中から自らの苦手気づき、克服するサイクル」を身につける
- 教員が苦手箇所傾向を授業ごとに把握し、個別対応を強化できる授業支援体制の構築

■具体的な活用法

- 授業内 : 小テスト機能による理解度確認→AIによる復習課題の自動配信
- 家庭学習 :
 - ・小学生は復習課題に1回20～30分取り組み、不明点を蓄積しない学習習慣づくり
 - ・中学生は文法単元ごとに「強化月間」を設定、月2時間程度の課題に自主的に取り組む
- 長期休暇 : 学力診断テストで総復習→再テストや復習ドリルで定着を図る

■教員支援

- 児童生徒への個別対応に役立つ独自の学習レポートを定期的に提供

■評価方法

- 定量評価 : 学習時間、目標達成率、小テスト・定期テスト点数、つまずき克服率など
- 定性評価 : 意欲・学習習慣・自己効力感・メタ認知の変化をアンケートで追跡
※定量・定性の結果を組み合わせ、効果の全体像を検証

■実施体制

- すららネット開発チーム : シラバス設計、学習ログ分析
- 同 学校チーム : 操作・運用研修、学習データの活用サポート
- 朝霞市教育委員会 : 全体統括・調整

【実証研究の背景】

GIGA スクール構想の進展により、一人一台端末が整備され、学校現場ではICTを活用した「個別最適な学び」の実現が求められています。しかし、児童生徒が自分のつまずき気づき、主体的に克服する力を育てることや、教員が一人ひとりに応じた支援を行うには、依然として多くの課題が残されています。

こうした中、AI型教材「すららドリル」は、児童生徒の学習状況を可視化し、つまずきの原因を分析、個別に復習課題を出す機能を備えています。学習ログを活用することで、教員が日々の授業に役立てることもでき、効果的な個別指導につながります。

また本実証では、学年や教科ごとの課題にも注目しています。小学校6年生の算数では、中学進学前につまずきを克服し、学習習慣や「自分ができる」という感覚＝自己効力感を育てることが狙いです。中学校1年生の英語では、入学直後から見られる学力の二極化を防ぐことが課題です。小学校の英語が「楽しい活動中心」であった一方、中学では急に「覚える・文法重視」に変わるため、戸惑う生徒も少なくありません。文法に重点を置いた「すららドリル」は、そのギャップを埋める役割を担います。

すららネットと朝霞市教育委員会は、この実証を通じて、AIの力を活かした新しい学びと指導の形を探り、全国の教育現場に役立つモデルの構築を目指します。

■AI×アダプティブラーニング教材「すららドリル」

「すららドリル」は、公立小中学校向けの AI ドリル教材で、児童生徒一人ひとりの理解度に応じたアダプティブな学習を提供します。AIによる「つまずき診断」や「出題難易度コントロール」により、国語・算数／数学・英語・理科・社会の5教科を、学年を越えて柔軟に学ぶことができます。教材はドリル、テスト、対話式レクチャーの3機能で構成され、「演習→確認→復習」のサイクルで無理なく学力の定着を図ります。また、テストの自動作問・採点、自動復習登録機能により、教員の負担も軽減します。

「すららドリル」は、多様な学習スタイルに応じた指導が可能で、児童生徒の主体的な学びと教員の指導の質向上を同時にサポートします。

すららドリル



■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AIを活用したアダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」などを開発・提供しています。現在、国内の3,100校以上の学校や学習塾で導入され、約26万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況にある子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017年に、代表的な EdTech スタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- ・コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト <https://surala.jp/>

<資料に関するお問合せ先>

株式会社すららネット 広報担当

e-mail : press@surala.jp

TEL : 03-5283-5158 (代表) FAX : 03-5283-5159